

1. 科目名（単位数）	産業・組織心理学（2 単位）		3. 科目番号	PSMP3352
2. 授業担当教員	岩月 敦			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「社会心理学」の単位を修得した後に履修するのが望ましい。			
7. 講義概要	産業・組織心理学は、現場で働く人々のニーズに研究知見が直結する応用的分野である。これはすなわち、産業・組織心理学の研究知見が、組織を運営する人々や組織で働く人々、さらに社会人として大小の組織に加入することになる学生にとっても、現場の状況理解や問題解決につながる有用な知見が蓄積されているということである。本授業では、組織の中で、個人がどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらにリーダーシップ行動や組織における意思決定や消費者行動について学ぶ。こうした産業の中で効率を上げるための心理学だけでなく、メンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、コミットメント、動機づけなどを含む職務満足、さらにはキャリア発達の視点とキャリアカウンセリングについて理解する。そして、学んだ産業・組織に関する知見に対して、どのような心理的な援助ができるかについて考究する。			
8. 学習目標	1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができる。			
9. アサシメント（宿題）及びレポート課題	1. 授業ノートを用意し、各回で事前学習、事後学習として指定されたことを、毎回必ず行う。 2. 事後学習では、授業時間のふり返りと教科書の該当部分の読み返しの双方を必ず行う。 指示された課題、レポート提出は必ず行う。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山口弘幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房、2007。 【参考書・教材】 松井豊著『改訂新版 心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー』河出書房新社、2010。その他、必要に応じて提示する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し、職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができたか。 ○評定の方法 1. 授業態度と参加姿勢、および日常の学習状況 総合点の40％ 2. レポート 総合点の30％ 3. 期末試験 総合点の30％			
12. 受講生へのメッセージ	心理職という形でなくても、産業・組織心理学の学びはヒトとして生きる上で有用なものとなるでしょう。そのためには、知的な意欲を持って（ほんのわずかでも授業のエッセンスを意図的に使い）授業の内外を過ごすことがより有効となります。自身の生きている日常で、周囲や社会の出来事などについて興味や問題意識を持って頭を使うことが習慣になると、有意義な知が蓄積、構築されることにもなります。また、分野も超えて知的的好奇心、探求心をますます増加させ、自身の知の発展および、こうした喜びを味わうという飲みの多い好循環の人生を生涯にわたって過ごすことが可能となります。 新たな情報・知識の大量獲得よりも、以下の学びのプロセスをたどることを第一義とする姿勢を求めます。 1）まずは自分の頭で、その時点での自身の知を抽出、可能な範囲で整理する。 （きれいにまとめられるとは限りません） 2）自身の無自覚な思い込み、思考の枠組み等も含めて、抽出した自身の知に挑むという姿勢で吟味する。 3）必要に応じて新たな情報・知識も含めて、上記の姿勢でさらに吟味し、整理、概念化する。 これらを授業内での他者との相互作用という点で考えると、以下のように表現することもできます。 ア) 自分の考え（意見）を言語化し、伝える。 イ) 心を開いて、頭を使って、他者（教員・他の学生）の話、やり取りに耳を傾ける。質問をする。 （自分の問題としても関与する） ウ) 他者の話や会話に声を出した形で参加していない時も、頭の中では常に参加する。頭と心を使う。 エ) 必要に応じて、自分の考えの変化を言語化し、伝える。 なお、遠隔授業の場合には画面オンを基本とする。			
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーションー受講契約と導入	事前学習	産業・組織心理学の自分なりのイメージと、授業への期待について言語化、記述する。	
		事後学習	上記のものが、初回の授業を経てどう変化したのかを言語化して、記述する。	
第2回	産業・組織心理学の歴史とテーマ①	事前学習	産業・組織心理学に関連すると思われる自身の問題意識を言語化して、記述する。	
		事後学習	自身の問題意識が、今回の授業とどう関連する（可能性がある）のかを言語化、記述する。	

第 3 回	産業・組織心理学の歴史とテーマ②	事前学習	前回の授業を踏まえ、自身の関心を産業・組織心理学のテーマに当てはめて考え、記述。
		事後学習	授業をふり返り、新たに持った問題意識について言語化して、記述する。
第 4 回	採用と面接	事前学習	自身や知人の面接経験（なければ小説、ドラマ等を通じた想像）が、どのようなものだったのかを言語化して、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、採用と面接に関して自身の考えがどう変化したのかを言語化、記述する。
第 5 回	人事評価	事前学習	評価について、自身の考えを言語化して、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、人事評価に関して自身の考えがどう変化したのかを言語化、記述する。
第 6 回	モチベーション（動機づけ）①	事前学習	自身のモチベーション（動機づけ）が大きく変化したエピソードを想起し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、モチベーション（動機づけ）についての自身の考えがどう変化したのかを言語化し、記述する。
第 7 回	モチベーション（動機づけ）②	事前学習	自身のモチベーションの源について考え、言語化して記述する。
		事後学習	モチベーションに関する自身の考えがどう変化したのかを言語化して記述する。
第 8 回	キャリア発達①	事前学習	自身のキャリアで重視してきたこと、重視したいことについて考え、言語化し記述する。
		事後学習	自身のキャリアで、転機、重要な出来事など（これまで、これから）を具体的に記述する
第 9 回	キャリア発達②	事前学習	自身の卒業後の進路や職業について、これまでの人生も踏まえてレポートを作成する。
		事後学習	自分の卒業後の進路や職業についてレポート（2,000 文字以上）を完成させ、提出する。
第 1 0 回	職場のコミュニケーションと人間関係	事前学習	職場や学校、その他でのコミュニケーションと人間関係について（もしくはそれらを対比して）自身の考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変化したのかを言語化し、記述する。
第 1 1 回	リーダーシップ	事前学習	リーダーシップについて、実際に経験等を例示しながら自身考えを言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、リーダーシップに関する考えがどう変化したのかを言語化し、記述する。
第 1 2 回	消費者行動とマーケティング	事前学習	消費者としての自身の思考、行動について、逆の立場からも考え、言語化して記述する。
		事後学習	授業をふり返り、自身の考えがどう変化したのかを言語化し、記述する。
第 1 3 回	仕事の能率と安全	事前学習	能率と安全について、自身の考えを言語化し記述する。
		事後学習	授業をふり返り、仕事の能率と安全に関する自身の現在の考えを言語化し、記述する。
第 1 4 回	職場のストレスとメンタルヘルス	事前学習	職場その他でのストレスとメンタルヘルスについて、自身の考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、上記の自身の考えがどう変化したのかを言語化し、記述する。
第 1 5 回	ふり返りとまとめ	事前学習	これまでのノートすべてを振り返り、学びや自身の変化などを踏まえて感想を記述する。
		事後学習	授業をふり返り、今後に向けた自身の課題意識について言語化し、記述する。
期末試験			